

教育未来創造会議

新たな時代における大学の役割について

－DX人材養成とリカレント教育の観点から－

2021年12月27日（月）

京都橘大学
学長 日比野英子



変化を楽しむ人であれ

京都橘大学



1. 京都橘大学について

1902年（明治35年） 京都女子手芸学校 創立（創立者：中森 孟夫）
1967年（昭和42年） 橘女子大学 開学（初代学長：高田 三郎）
2005年（平成17年） 男女共学化、大学名を「京都橘大学」へ

- 京都にある通学制と通信制をもつ総合大学（現在8学部15学科、在学生約5,500名）。
- 女子大文学部のみからスタートし、男女共学化、看護・医療、対人援助、IT・ビジネス系分野、工学、通信課程までを擁する総合大学へ。現在、新中期計画（2023年度より実行）を策定中。
- 2021年4月に経済・経営・工学部を同時開設。工学部には、建築デザイン学科とともにDX、IT人材を育成する情報工学科を設置。

コロナ禍における取り組み

- ・ 遠隔授業実施に伴うパソコン、モバイルwifiルーターの貸出（2020年5月～11月）。
- ・ ピアサポート制度「たちばなConnect Project」。新入生のサポートと先輩学生の経済的な支援を両立。200名以上の学生がピアサポーターに就任（2020年6月～）。
- ・ 新型コロナウイルスの影響によるひとりの退学者も生まないための給付奨学金「つながるたちばな奨学金」を設置（2020年6月）。
- ・ 学生の様々なコミュニティや大学という共有できる学びの空間を維持するため、感染対策を徹底し、可能な限り対面授業を実施（2020年後期9割の授業を対面にて実施）。
- ・ 学内PCR検査の実施。実習授業の安定的な継続と地域医療現場の負担軽減を目的として（2021年5月～）。
- ・ 本学の教員・職員・学生・卒業生による「チームたちばな」新型コロナワクチン職域接種を実施。本学学生の接種率約72%（2021年6月～8月）。
- ・ 通信教育課程をもつ大学として、コロナ前よりオンデマンド教育を実施。今後、コロナ禍での経験を踏まえ、通信課程と連携しICT教育を先進的にとりいれた新しい学び方を展開。

2. 新たな時代に対応する大学の課題

【DX人材養成は喫緊の課題】

- ・大学によるリテラシーレベルから応用基礎レベルのデジタル人材養成の
リカレント教育の可能性
- ・企業のニーズに応じた人材養成教育を提供し、特に中小企業のDXにも貢献
(エキスパートレベルは工学部・大学院での専門教育が必要)

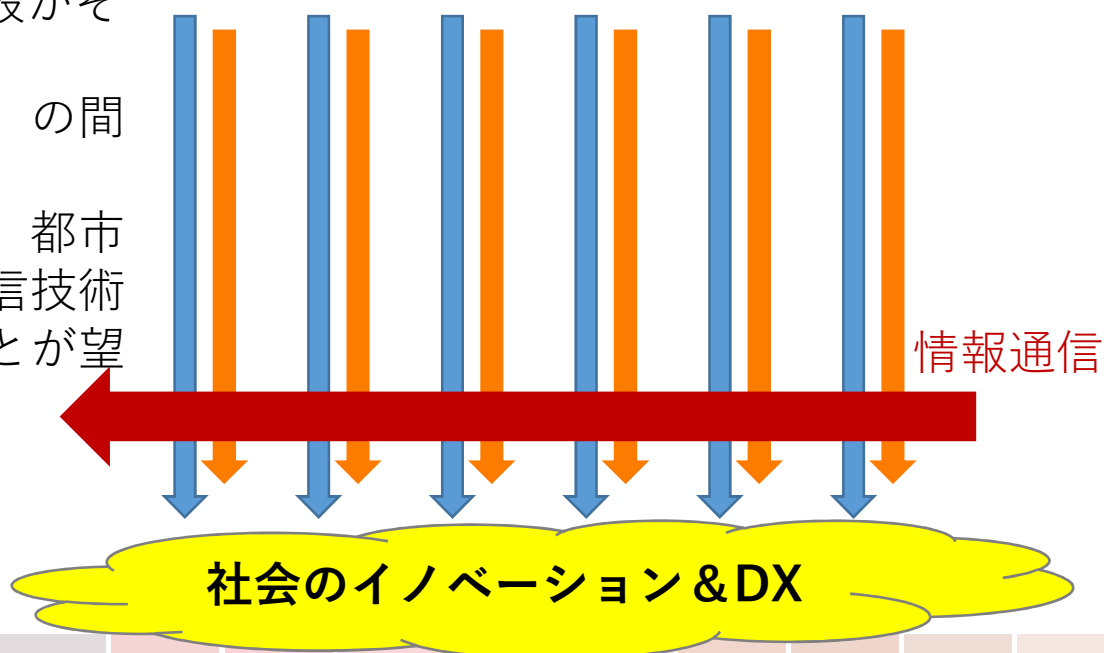


【情報技術を知る専門家集団の育成へ】

- ・日本の職場におけるITスキル全般がそれほど高くない。
- ・発注側と受注側（情報通信技術）の間に大きな谷が存在してしまう。
- ・総務や財務、医療、福祉、土木、都市計画などの専門家の中に情報通信技術の知識をもつ人材が含まれることが望ましい。

【社会システム、行政システム】

法律、経済、医療、福祉、土木、都市計画



3. 未来を担う人材の育成にむけてー産官学連携でリカレント教育をー

- * 通学制・通信制という枠を超えた新しいリカレント教育の必要性。
 - ・ 社会変化に対応できる人材の育成は大学の使命
 - ・ リカレント教育により、仕事と交互に教育を受けていける仕組みづくり。
(例) 大学・大学院修士課程の1年間を想定したリカレント教育を実施
1年目：オンラインによる座学中心の講義
2年目：半年or1年間の対面授業による専門・実践的な演習・実習・修士研究など。
 - ・ モノづくりとITスキルを併せ持つ技術を教育する新しい形の工学部の拡充も必須
- * 大学は、専門分野の研究者が集っている。各分野に情報の専門家とともに
共同で教育・研究を行うことによりDX人材の育成に寄与していく。

共同で教育・研究を展開

専門教育の研究者



情報の専門家

- * リカレント教育は、日本の「活力向上」のためにやるものと位置づけ、
産官学で実行すべきこととして仕掛けをつくっていく。
→ 国、企業、行政も投資した分、回収できるようなシステムを構築

- * 企業単体の仕事ではなく、情報関連分野だけのテーマでもない。
産官学の多様な連携を行い、日本社会がかわっていく好機としてとらえる。